



## 東日本大震災

# 被災者の痛み、理解して

## AMD A医師ら講演

県立天大大学院の公開講座「災害セミナー」が17日、北区奉還町2の岡山国際交流センターであり、東日本大震災被災地で救援活動を展開した国際医療救援団体「AMD A」（本部・北区）の医師らが高岡邦子さんと共に、被災地の医療機関が再開された4月20日まで緊急医療チームを派遣。今夏は地元医療機関支援のため看護師らを被災地に派遣している。

### 県立天大大学院 災害セミナー

師らが講演した。約80人が参加し、被災者支援のあり方を考えた。

同大大学院保健福祉学研究所の授業「災害医療援助特論」の一環で、毎年1回開かれており、今年で8回目。AMD Aは震災翌日の3月12日から

支援物資が安定し、仮設住宅への入居が始まっ

た後は、入居した被災者を回りながら、積極的に対話することを心掛けた。「避難所から仮設住宅に移るとプライバシーは確保されるが、周囲の人と話す機会が少なくなり、孤独に陥ってしまう」と考えたからだという。

高岡さんは、時間とともに被災者のニーズが変化していくことを強調。

「常に相手の痛みを理解し、寄り添うことを忘れないでほしい」と柔軟に対応する重要性を訴えた。同大大学院1年の延原あゆみさん(23)は「被災地の町並みなど、外観だけを意識するのではなく、被災者の内面を長期的に支えていく必要性を感じた」と話した。